

令和5年度学校評価報告

1 学校の教育目標の達成状況（概要）

(1) 自らが学ぶ力を育てる学習指導の推進

- 「自分で学習する仕方や方法が身に付いている」と回答した生徒の割合は、1、2学期とも85%を超えていた。保護者も、「自分で学習する仕方や方法が身に付いている」と回答した割合が、1学期から2学期にかけて60%から63%と増加した。
- 「目標を決めて努力したり、検定試験等に挑戦したりしている」と回答した生徒の割合は1、2学期とも70%以上であった。特に3年生の肯定的な回答の割合が増加した。
- 「学校は学力を上げるため、様々な取組や工夫をしている」と回答した生徒の割合は1、2学期とも95%以上だった。保護者の割合は1学期の75%から2学期89%と高くなっていった。学習の手引きを作成したことや、2学期以降行っている学習マッチなど、工夫した学習への支援が保護者にも伝わり、保護者からの信頼を得ていると思われる。

(2) 社会性を育み、規範意識を高める生徒指導の推進

- 「自分や他の人を大切にしている」「委員会活動、行事等に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は、共に90%を超えていた。保護者も両方とも90%程度と肯定的に捉えている。
- 1学期は「悩みや心配事を親や先生に気軽に相談している」と回答した生徒の割合は61%、「全くあてはまらない」と回答した生徒は17%だった。そこで、全校生徒が年に1回はスクールカウンセラーからカウンセリングを受けられるようにした。その結果、2学期は「あてはまる」と回答した生徒は62%だったが、「全くあてはまらない」と回答した生徒は7%に減少していた。中でも3年生は2学期以降、進路相談の機会が増えたため1学期よりも改善傾向にあった。
- 「家庭や地域との協力」の質問に対して1学期に「あてはまる」や「ややあてはまる」と回答した生徒は82%、保護者は83%であった。2学期には生徒は変わらず82%だったが、保護者は96%だった。2学期は1学期よりもたくさん行事があり、運動会や文化祭等に保護者の参加を呼び掛け、たくさんの保護者に来校していただいたことが結果につながったと思われる。

(3) たくましい心身を育てる健康・安全教育の推進

- 「健康で規則正しい生活ができている」と回答した生徒の割合は、89%であり、肯定的な回答が多かった。
- 「挨拶がしっかりできている」と回答した割合は、生徒、保護者とも90%程度あった。非常に高く、現在の本校の良さと捉えることができる。
- 「部活動に意欲的に取り組んでいる」と回答した割合は、生徒、保護者とも90%を超えていた。
- 「学校は安全で過ごしやすい環境が整っている」と回答した割合は、1学期から2学期で、生徒は95%から95%、保護者は87%から93%、教員は91%から100%と高い数値を示している。

2 主な取組の課題と改善

(1) 自らが学ぶ力を育てる学習指導の推進

ア 学習意欲・態度について

- 今後も個々の生徒に寄り添った、落ち着いた授業ができるよう、生徒の状況について情報交換を行う必要がある。そして、共有した情報をもとに授業中に声掛けを行い、全教職員でサポートしていくことが必要である。

イ 授業改善について

- 全教職員が、ICT機器を活用し、分かる授業に努める。また、対話的で深い学びの場面を設定したり、じっくりと課題に向き合う場面を設定したりして、全教職員でより良い授業づくりを行っていかなければならない。

ウ 家庭学習の習慣化

- 各教科でオンライン学習サービス「スタディサプリ」を活用した課題を出し、家庭学習の習慣化を図る。また、「学習マッチ」を継続し、楽しみながら学習したり、やればできるという自信や自尊感情を高めたりする。今後も様々な手法を取り入れ、学力の向上を図る必要がある。

(2) 社会性を育み、規範意識を高める生徒指導の推進

- 学校生活全体を振り返ってみると、時間や決まりが守れていない生徒がいたり、思いやりに欠ける言動が見られたりすることもある。特に1年生には「言葉遣い」で気になる面がある。引き続き、毅然とした態度で生徒一人一人の人権を守る指導を心掛ける必要がある。
- 中学生の時期は、心と体の成長のバランスがとりにくく悩みの多い時期である。また、生徒の中には保護者や先生に悩みを相談せず、内に抱えたままにしている生徒も多い。そこでスクールカウンセラーと連携し、年1回はカウンセリングを受ける場面を設定する。それ以外にも、教育相談や日記指導など、日々の活動の中で相談活動の充実を図っていく必要がある。
- 「家庭や地域との協力」を更に深めていくために、保護者や地域の方が参加・協力をしていただける活動の工夫をし、地域に根ざした教育活動を大切にしていきたい。

(3) たくましい心身を育てる健康・安全教育の推進

- 「健康で規則正しい生活ができている」と回答した生徒の割合は高いが、保護者の回答は低い。家庭でスマホ等を用いて不規則な生活になっているという話をよく聞く。規則正しい生活とスマホの使い方についての指導を継続していく必要がある。
- 挨拶がしっかりできている生徒が多いが、まだまだ挨拶の声が小さいという指摘も聞かれるため、教員自らが明るく清々しい挨拶を心掛け、更なる活性化を図りたい。
- 保護者の中には、部活動に対して地域移行や大きな期待をしている方など様々な方がおり、指導が難しい時期であると感じる。部活動は現在、地域移行の過渡期である。そのため、学校として方針や活動時間、合同チームの在り方などしっかりとした考えを持ち、保護者に周知を図っておく必要がある。
- 今後も避難訓練や環境整備、そして教育相談等の機会を確保し、不安を抱える生徒の解消に努める必要がある。